

3月議会 議案の中から

① 議案第18～22号 平成28年度鎌ケ谷市一般会計・特別会計予算

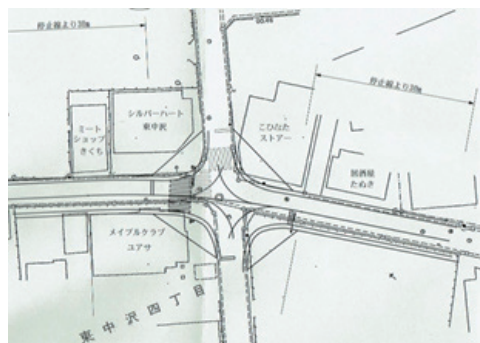
一般会計総額 337 億円、特別会計総額 238 億 7900 万円、合計 575 億 7900 万円の予算案が可決。主な事業について報告します。

◆多子世帯への支援について

- 多子世帯子育て支援助成金の実施 72 万円
- 児童扶養手当の拡充（第2子以降の加算分の拡充）拡充分 648 万円（合計 3 億 7543 万円）
- 私立幼稚園における奨励金補助金の拡充（低所得世帯の多子世帯及びひとり親家庭の保護者負担軽減）拡充分 764 万円（合計 2 億 9794 万円）
- 保育料の軽減（低所得者の多子世帯及びひとり親家庭の保護者負担軽減）317 万円

◆こひなた交差点改良事業について 設計委託費 400 万円

新規に押しボタン方式の信号機を設置し、通学路の安全を確保する。また、通過車両の視距を確保し、安全性を向上させるもの。来年度に予備設計を実施し、協議を整え、道路線形と信号設置位置を確保させ、平成29年度以降に用地測量を実施し、用地を取得していく予定。



① 平成27年3月議会における一般質問より

Q 旧精工舎通りの交通状況について

A 平成20年度の数値では、1方向12時間で約4,000台の通行車両があり、1日当たりに換算すると、約1万台を超える通行車両があるものと推定される。この交通量は市内の主要な市道の中でも多いほうに位置する。



松沢の視点

東中沢 1.2.3.4 丁目の境にある交差点の改良の必要性を指摘し1年が経ちましたが、交差点改良する運びとなったことは非常に嬉しいことであります。予備設計費400万円は交差点整備の方向性を検討するためであり、全体事業費として約3億円の経費を見込んでいます。押しボタン式信号設置までには第4次実施計画に計上されなくてはなりませんので、引き続き、見通しが悪く、車両の交通量が多い交差点の改良に向けて取り組めます。

◆公共施設長寿命化に向けた改修促進 総事業費 5 億 6255 万円

鎌ケ谷小学校外壁等の改修	1 億 6223 万円
東野少年野球場の防球ネット及びトイレの整備	4141 万円
鎌ケ谷小学校プールの改修	3768 万円
栗野保育園機械室の改修	3063 万円
鎌ケ谷保育園トイレ及び遊戯室の改修	2523 万円
陸上競技場改修の設計	1300 万円
道野辺保育園給水管の改修	1050 万円
軽井沢地区集会所の外壁・屋上防水改修、空調設備改修	1032 万円
中央児童センター全面改修の設計	908 万円
鎌ケ谷コミュニティセンター外壁の改修	844 万円
図書館の空調設備等の改修	766 万円
東初富公民館の外壁・屋上防水改修の設計	276 万円
道野辺中央コミュニティセンター外壁・屋上防水改修の設計	266 万円
栗野保育園トイレ改修の設計	242 万円
初富小学校放課後児童クラブ改修の設計	200 万円
栗野保育園給水管改修の設計	133 万円

道路等の改修	1 億 7020 万円
公園遊具等の改修工事	2000 万円
交通安全施設の更新	500 万円

◆公共施設等総合管理計画策定事業 600 万円

松沢の主張

総務省の指針により自治体に公共施設等総合管理計画を策定するよう求められており、鎌ケ谷市においても策定計画に向け取り組んでいます。市のプロジェクトチームが算出した大規模改修費用と建てかえ費用は今後約600億円、年間12億円が必要と試算されており、築年数30年以上経っている施設が約6割ある鎌ケ谷市にとって管理計画の策定は重要であります。公共施設の再配置や統廃合も含めた適正な施設総量の検討や公共施設の複合化・多機能化の検討する時代になってきているのではないのでしょうか。

松沢たけひと 市政報告会

※入退場自由ですので、どなたでも気軽にご参加ください。

5月22日(日) 14:00 ~ 15:00



会場：松沢たけひと みんなの会事務所
(鎌ケ谷市東中沢 2-19-88)
問い合わせ先：TEL 047-445-5260

◆空き店舗活用の推進 500 万円

平成27年9月議会における松沢の一般質問より

Q 現在の鎌ケ谷市の空き店舗の状況について

A 平成25年 21件 7.7%増加 平成26年 35件
鎌ケ谷市中央商店会と大仏商店会の調査結果

松沢の主張

昨年度に実施した空き店舗活用事業は国の補正予算を活用した事業でしたが、28年度は鎌ケ谷市の一般財源で継続して実施します。商店街のシャッター街化の解消に向け有効な手段と考えますが、地域の方々が商店街に足を運びきっかけとなるような、交流スペースの設置など、地域コミュニティを形成する取り組みも必要と考えます。

松沢たけひと プロフィール



- 昭和50年 鎌ケ谷市東中沢で誕生
- 昭和57年 みちる幼稚園卒園
- 昭和62年 鎌ケ谷市立中部小学校卒業
- 平成2年 鎌ケ谷市立第四中学校卒業
- 平成5年 県立白井高等学校卒業
- 平成10年 中央学院大学法学部法律学科卒業
- 平成18年 (株)人形工房 武人 設立 代表取締役
- 平成19年 鎌ケ谷市議会議員 初当選
- 平成23年 鎌ケ谷市議会議員 再選(2期目)
- 平成23年 都市・市民生活常任委員会委員長
- 平成24年 千葉県指定伝統的工芸品に認定
- 平成27年 鎌ケ谷市議会議員 再選(3期目)

私、松沢たけひとは40歳と会派政友会の中では最年少ではありますが、鎌ケ谷市議会議員の一人として、市民の皆様信頼され、そして、期待に応えられるよう行動してまいります。

お金をかけないクリーンな活動を展開するため、サポーターを募集しています。
松沢たけひと みんなの会 事務所

〒273-0112 千葉県鎌ケ谷市東中沢 2-19-88
TEL.047-445-5260 FAX.047-443-5551
http://www.t-matsuzawa.net

Q 不登校児童生徒の現状について

A 平成 27 年度の1月末現在、鎌ケ谷市内小中学校の不登校児童生徒の状況は、小学校で 31 名、中学校で 62 名の合計 93 名。児童生徒一人一人の発達段階や心のつまづきに寄り添った指導、支援に努め、状況の改善に向けて取り組んでいる。

Q スクールカウンセラーの相談実績について

A 平成 27 年度において、鎌ケ谷市内には小学校1校、中学校5校にスクールカウンセラーが千葉県教育委員会により配置。また、スクールソーシャルワーカーが中学校1校に配置。スクールカウンセラーの相談実績は、1学期は 457 件、509 人、2学期は 583 件、675 人の相談があった。

Q スクールカウンセラーの拡充について

A スクールカウンセラーの派遣は県教育委員会によるところで、来年度は、新たに小学校1校に1名配置され、鎌ケ谷市内には小学校2校、中学校5校にスクールカウンセラーが配置される予定。

Q 保護者への支援体制について

A 担任や長欠対策担当教員が相談の中心となっており、学期ごとに長欠保護者会を開くなどして、保護者が学校に直接足を運んで情報を得たり、交流する場を設けている。また、不登校に関する相談窓口としては、市の生涯学習推進センター内に教育相談室がある。不登校児童生徒のための適応指導教室、ふれあい談話室を兼ねており、相談員4名体制で電話相談や面談による来所相談も受け付けている。

松沢の視点

不登校という現状の課題に対して取り組む一方で、不登校の未然防止に重点を置く施策も必要と考えます。また、将来的には学習支援や指導にITを活用することも必要と考えます。

◆住生活基本計画について

松沢の視点

平成 22 年 3 月の一般質問にて住生活基本計画の必要性を提言して 6 年が経ちましたが、東葛 6 市の中で計画がないのは野田市と鎌ケ谷市だけです。この間社会情勢も大きく変化しており、近年に即した住宅政策が展開できる住生活基本計画を策定することが必要です。

◆マンション政策について

Q 市内のマンションの築年数割合、旧耐震基準のマンションについて

A 平成 28 年1月末現在、市内には 138 棟の分譲マンションが存在している。旧耐震基準のマンションは 68 棟存在し、割合にすると約 49%と非常に高い数値となっている。

マンションの築年数別割合

40 年以上	49 棟	36%
30 年以上 40 年未満	40 棟	29%
20 年以上 30 年未満	20 棟	14%
10 年以上 20 年未満	17 棟	12%
10 年未満	12 棟	9%

松沢の視点

老朽化に対応した改修を行わなければ、居住者だけでなく、周辺環境にも大きな影響を及ぼすおそれがあり、まちづくりの観点からもマンションの適切な維持管理は重要な課題となります。市川市、印西市が実施しているマンション管理士派遣事業を展開していく必要があると考えます。

◆東中沢 1 丁目マンション建設について

Q 東中沢1丁目マンション建設における対応、協議について

A 市では、申請内容における道路、排水、緑地、ごみ集積所などの公共公益施設の整備について事業者と協議を行い、現在事前協議が調い、平成 28 年 3 月 2 日付で協議書を締結。同じく 3 月 2 日に都市計画法第 29 条に基づく開発行為の許可申請があり、申請内容を審査中で

ある。この間に地元住民の方々から当該マンションの計画に対する様々な要望が市に寄せられ、市では事業者に対して地元からの要望を伝え、地元住民の方々とはよく話し合いをするように指導。その結果、当初計画を一部変更して地元の要望に配慮した計画として事前協議が終了し、現在開発許可申請に至っている。

松沢の視点

マンション建設の場合、工事期間が長くなり、工事上の影響を受けることになります。作業時間や休業日、工事用車両の通行や騒音・振動、ほこりやゴミの飛散などの対策について請負の施工会社等に十分確認し、協議ができる体制にしておくことが重要と考えます。

◆市営住宅について

Q 市営住宅のストックの状況について

A 市営住宅は、現在市内に4団地ある。管理戸数は 146 戸。建物は合計7棟あり、建設は人口が増加傾向にあった昭和 40 年代後半から昭和 60 年代であり、建設後 28 年から 43 年を経過している。

Q 今後の市営住宅の需要について

A 今後 10 年間に必要なのは新たな市営住宅の供給は必要ないものと考えている。既存の市営住宅は、公営住宅法による耐用年限である 70 年まで維持することを基本としているが、各団地、棟別の活用方針として、昭和 40 年代後半に建設された建築物は予防的な維持管理を行いながら 10 年後の次期計画では建てかえ等の必要性を検討している。また、昭和 50 年代以降に建設された建築物は必要な改善を実施し、長寿命化を図ることとしている。

松沢の視点

借り上げ方式は、建設費用が掛からないことや国庫補助の対象といったメリットもありますが、借上期間後の対応が確立していないなど課題もあります。ライフサイクルコストを意識し、借り上げ方式を含め、市営住宅のあり方を検討する必要があるのではないのでしょうか。

◆空き家について

Q 他市による民間との協力体制について

A 八千代市は、平成 27 年7月から八千代市シルバー人材センターが希望者に対して空き家等の見回りや敷地内の除草、植木の剪定など空き家等の管理に関する業務を行い、市は広報やホームページ等を用いて業務のPRに努めるといった協定を締結し、民間との協力による空き家の適正管理を実施。横浜市や埼玉県の鴻巣市、鶴ヶ島市などでも行われており、空き家対策の手法の一つとして検討してまいりたい。

松沢の視点

人口減少をめぐる構造的問題だけでなく、新築を好む日本人の考え方も空き家増加につながっているのではないのでしょうか。鎌ケ谷市においてもシルバー人材センターを含めた民間との連携によって、空き家の適正管理を促進することを提案します。

◆三世同居・近居の促進について

松沢の視点

国による地方創生に係る施策の1つですが、具体的な検討は行っていません。千葉市で展開している三世同居等支援事業や習志野市の親元近居住宅取得促進事業等、鎌ケ谷市においても人口流入策の一つとして検討すべきと考えます。

編集後記

今回初めて、議員インターンシッププログラムを受け入れました。プログラムを通して、私自身、なぜ政治を志したのか、私自身ができることは何か、鎌ケ谷のまちづくりをどう考えているのか、初心を再認識することができました。次世代が 20 年 30 年後、支える側の中心となった時に「自分たちのためのまちづくりをしてくれて、ありがとう」そう言ってもらえるような感謝の気持ちが循環する鎌ケ谷にしていきたいと思えます。